

水稲の生育情報

「コシヒカリの幼穂形成が進んでいます。間断かん水を行いましょう。」

概況（7月10日 水稲定点ほ場調査結果から）

7月上旬の平均気温と日照時間はともに平年よりかなり高く推移しました（図）。水稲の生育は、平年と比較して草丈は長く、茎数は少なく、葉色は薄く推移しています（表）。なお、現時点での幼穂長から、出穂期は4月下旬移植の場合平年並み、5月上中旬移植の場合遅いと予測されます。

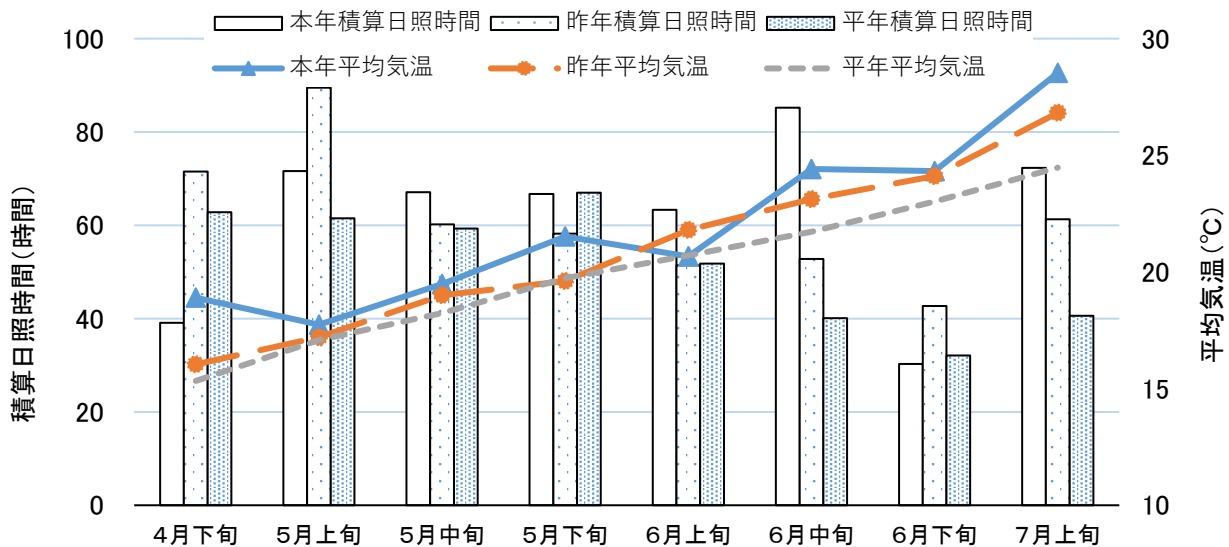


図 4月下旬から7月上旬別平均気温と日照時間（古河）（注）平年値は1991～2020年の平均

表 定点ほ場の生育調査結果（令和6年7月10日現在）

品種	調査地点	田植日	植付本数 本/株	栽植密度 株/m ²	草丈 cm	茎数		葉色 葉色板	幼穂長 mm	出穂期 予測
						本/株	本/m ²			
コシヒカリ	坂東市	4/29	4.6	15.2	94.7 (88.2)	30	461 (550)	3.3 (3.9)	181.7	7/13 (7/22)
	境町	4/25	4.5	13.9	92.8 (90.3)	32	442 (534)	3.3 (3.8)	64.0	7/22 (7/24)
	五霞町	5/7	4.8	15.9	94.0 (81.2)	28	445 (489)	3.4 (3.8)	8.6	7/27 (7/30)
	古河市	5/11	4.5	15.9	87.8 (81.3)	30	477 (496)	3.6 (3.8)	2.4	7/31 (7/26)

※()内は過去5年間の平均値。

今後の栽培管理

3～4日間隔で入水と落水を繰り返す「間断かん水」を出穂直前まで続けましょう。
極端に葉色が薄いほ場では、白未熟粒の発生低減のため追肥を行いましょう。

○病害虫防除（斑点米カメムシ対策）

近年、作期の長期化に伴い、カメムシの被害が増加しています。昨年度被害が多発生したほ場やカメムシが多く見られるほ場では、薬剤による防除を行いましょう。防除適期は、穂ぞろい期（全体の90%の穂が出たとき）および出穂後10日後ごろの計2回です。粒剤を使う場合は、農薬の成分を発揮するまで少し時間がかかるため、防除適期の2～3日前に施用しましょう。

なお、開花中の防除は、受精を悪くして不稔へつながりまますので、早朝や夕方に行いましょう。